

# 彼方 【かなた】

校長通信  
H29.4.26  
Vol.5

## 【指導方針「信じる」】

「勉強したい」、「わかりたい」、「できるようになりたい」、「楽しい学校生活を送りたい」、「認めてもらいたい」、「友達と頑張りたい」、「もっとよくなりたいたい」、どの生徒も心の中で本気で願っています。しかし、それを素直に表せず、嫌な自分を出すことでしか表現できない生徒も少なからずいるものです。どんな場合でも、生徒が持つ可能性を引き出すためには、ひたすら話を聴き、問いかけていかなければなりません。一方的に指導するだけでは、思いや行動をうまく引き出すことはできません。「傾聴・質問・承認」による「自己決定と行動変容」こそが、生徒を指導・支援する基本姿勢と考えています。

「何を疑うのは、すべての可能性を潰していかなければならない。他を信用するのは、一つの可能性を信じ切れればよい」という言葉があります。まさに私たちの指導方針を示している言葉です。私たち教師が指導するとき、その方針が違っているとたどり着くゴールが違ってしまいます。指導方法は十人十色、教師が十人いれば十通りの指導方法があります。しかし、指導しようとする方向が十通りでは、生徒が改善のための一歩を踏み出すことができなくなってしまう。指導方針を共通理解するということは、生徒のより良い姿をみんなで具体的にイメージし、サポートすることだと思っています。

相手をコントロールしようとする結果だけが浮

き彫りになり、互いに苦しくなりますが、相手を理解しようとするれば、解決策が見えてくるものです。

例えば、授業中に保健室に逃げていく生徒がいるとき、教室に戻すことだけを考えると「早く教室に戻りなさい！」という相手をコントロールする言葉が出てしまいます。しかし、生徒がそれに従わないと両者の関係が苦しくなります。「彼が保健室に逃げ込むのは、なぜだろう？授業がわからないから？先生が嫌だから？親にガミガミ叱られたから？友達とけんかしたから？保健室に気になる女子が来るから？」と考えれば「どうしたの？」という質問から関わりがつけられ、生徒に寄り添う余裕が生まれてきます。「生徒指導が、生徒理解で始まり生徒理解で終わる」と言われる所以でもあります。「その時、どんな気持ちだったの？」「これから何するの？」「いつまでにやるの？」「できることは何？」「変えられることは何？」生徒理解は、生徒の気持ちを、思いを、苦しさを聴き続け、寄り添うことです。そして「迷惑かけた学級みんなのために放課後の日直の仕事をして2週間頑張っただけです。」「よし！応援するぞ！続かなかつたら、又別な方法を一緒に考えよう！」というスタンスでサポートしたいのです。

## 【笑顔】と【対話】

今年度、私たちが目指す教師像のひとつに「信頼関係がつけられる教師」というのを掲げました。それは、好かれようとする教師ではなく、どの生徒も好きになる教師を目指そうというものです。教師も人間です。反りが合わなかったり、馬が合わなかったり、なかなか好きになれないこともあります。でも

ひとりひとりの生徒の良さを見つめ、一生懸命認めることはできます。好きになる努力とは、相手の良いところを見て、心に留め、言葉にすることです。そして必ずできると信じ、働きかけることだと考えます。そのためにも普段から「笑顔」で挨拶を交わし、互いの思いを伝え合う「対話」を大切にしていきたいと思っています。

「純乎志操」の学校に罵声や恫喝はいりません。生徒の正面に立ち、上から見下ろしながら対峙する姿で終始してはならないと考えています。最後は、生徒の脇に立ち、穏やかな声で気持ちを聴き続け、理解し、どうすればよいかを一緒に考える指導こそ、「忍と耐」の学校が生徒を支える姿だと考えます。手間暇かけない指導はプロ教師の仕事ではありません。「傾聴・質問・承認」を駆使し、向かうべきゴールを設定し、必ず行きつけることを信じ、「一人の友も置き去らじ」という熱い思いと信念で指導・支援に当たりたいと思います。

言葉は、「言霊」です。自分が信じていることを声に出し、力強く相手に伝えると不思議と良い方向に動いていくものです。「大丈夫！必ずできるから！」この言葉が、改善のための第一歩です。ピンチをチャンスに変える最高の呪文は、「大丈夫！絶対できるから！信じているから！」という強い言葉です。

ダメな生徒、悪い生徒は、白山中には一人もいません。やっていることが少しダメなら、それをみんなで改善すればいいだけです。必ず良い方向に向かいます。「失敗は成功の途中」です。

だから、私たちの指導方針は、「信じる」なのです。